

# 厚生労働省班研究 遠隔医療実態調査 テレケア部門

岩手医科大学第二内科・循環器医療センター  
鎌田 弘之

2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

## テレケアの定義と分類

- 古典的定義: 遠隔医療とは映像を含む患者情報の伝送に基づいて遠隔地から診断、指示などの医療行為及び医療に関連した行為を行うこと(厚生省開原研究班)
- 今回(テレケア)の定義
  - 映像を含む→映像あるいは生体情報を含む患者情報
  - 健康管理や疾病管理を個人を含み行う
- テレケア形態
  - Hospital to Health care to Person (H to HC to P)
  - Hospital to Person (H to P)
  - Health care to Person (HC to P)
  - Health care to Business to Person (HC to B to P)

2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

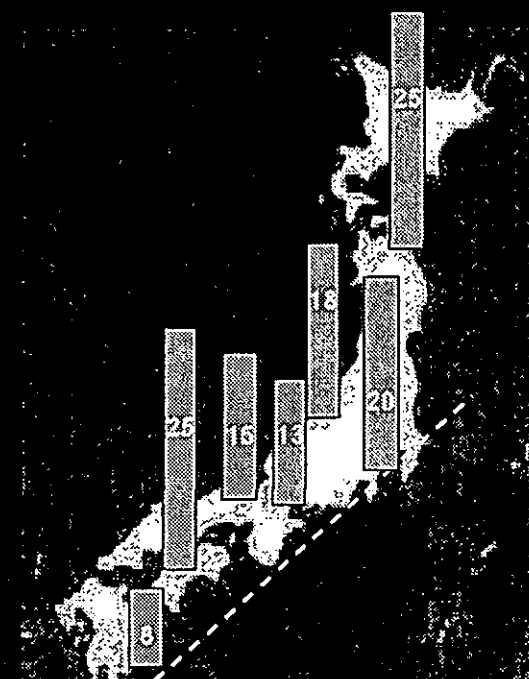
# 対象

- 研究班の独自の調査
  - 新聞、雑誌、開原班、個人的知り合い
- 保健医療福祉情報システム工業会 (JAHIS)
  - テレケア部会
    - 導入実績調査 (平成15年7月)
- 最終的に123事例を調査対象
  - 研究班からアンケート郵送
  - JAHISにアンケート調査依頼
- 65ヶ所から回答 (回収率53%)
  - 18箇所はすでに運用を中止している。

2004/3/5

厚生労働省 研究班  
発表会

## 国内のテレケア 実施状況



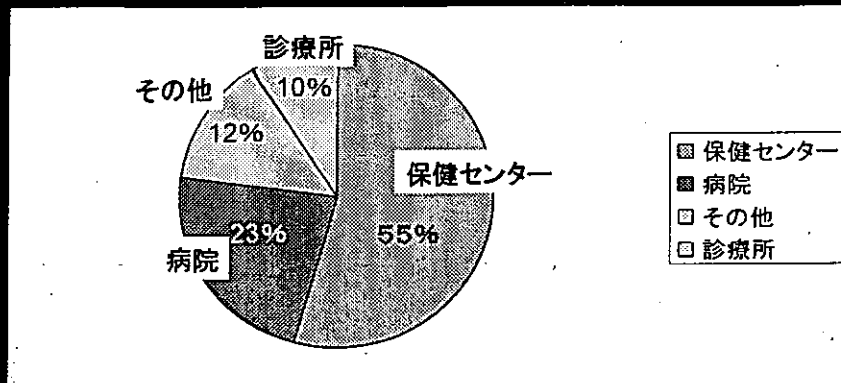
北海道・東北	25件
北陸・信越	18件
関東	20件
中部	13件
近畿	15件
中国・四国	25件
九州・沖縄	8件
合計	123件

21

19

研究班

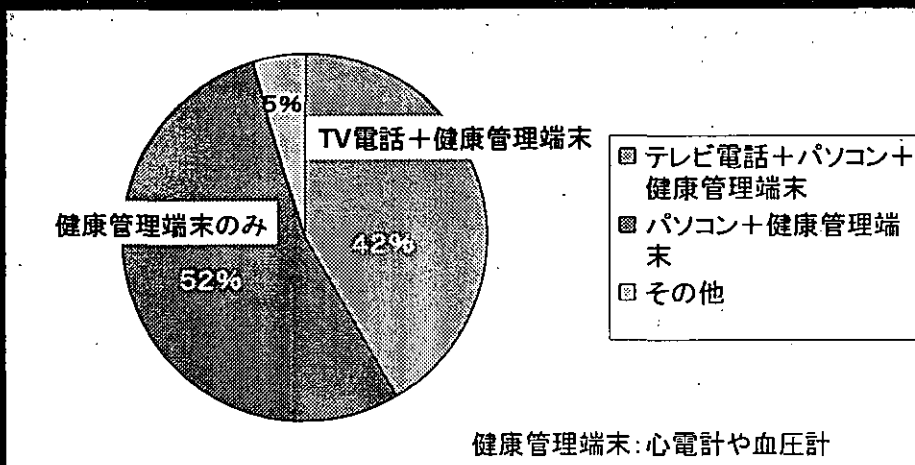
# 回答施設



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

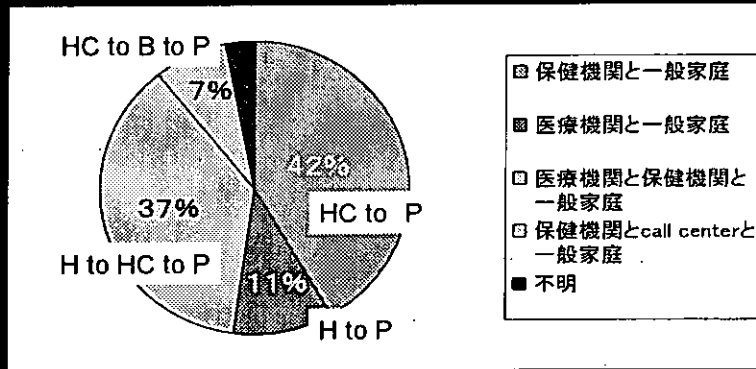
# 使用機器



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

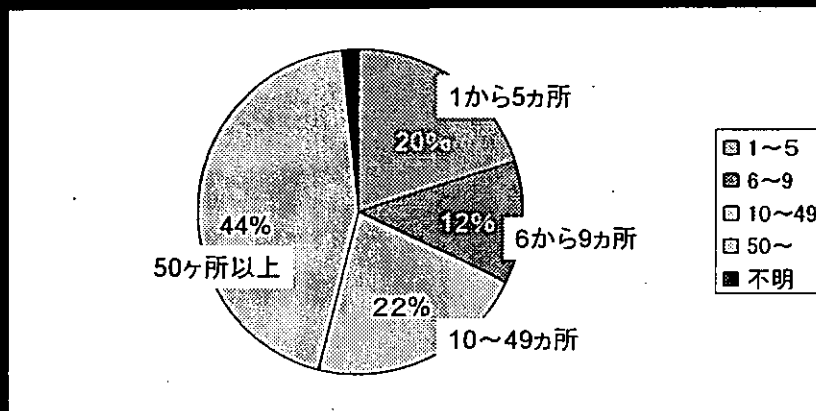
# テレケアの種類



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

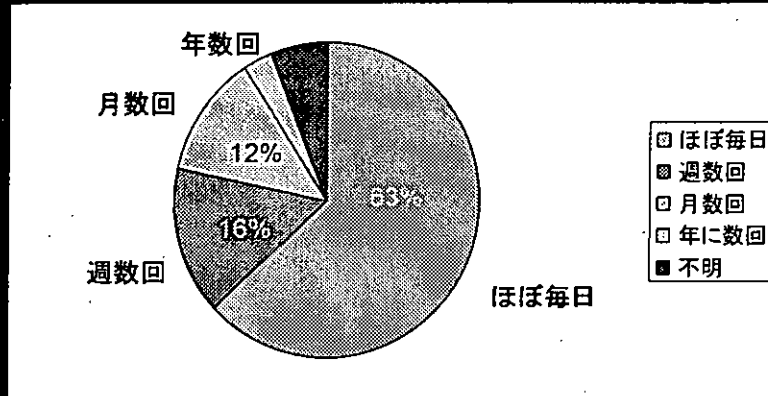
# 接続施設数



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

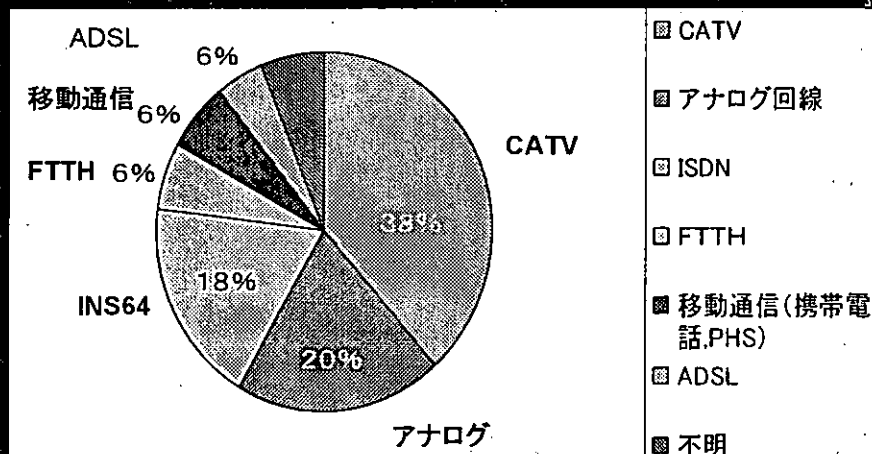
# 使用頻度



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

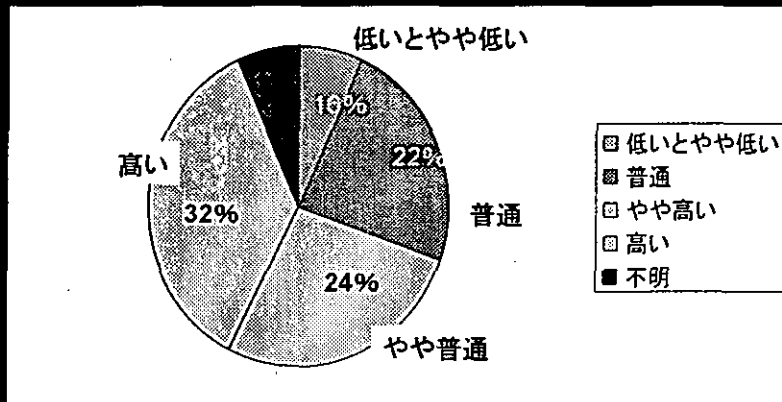
# 回線種別



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

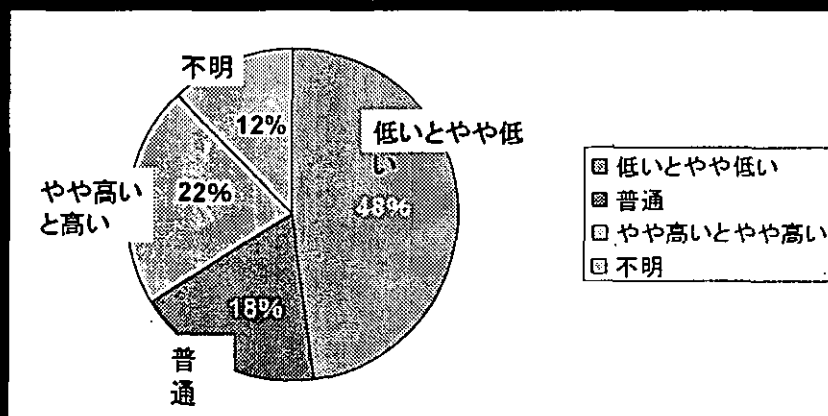
# テレケアを有用と感じるか？



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

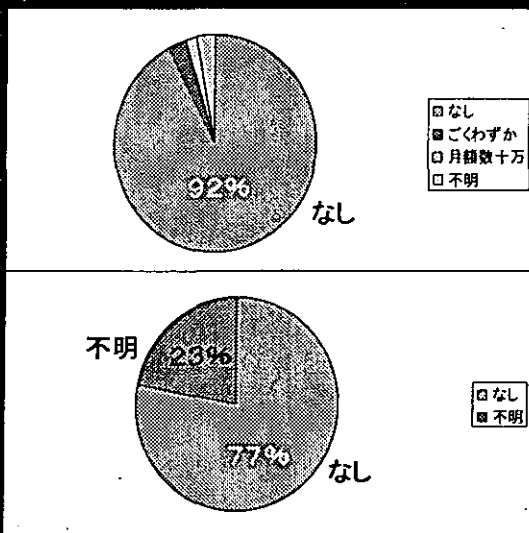
# 費用の負担感



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

# 収入と保険請求



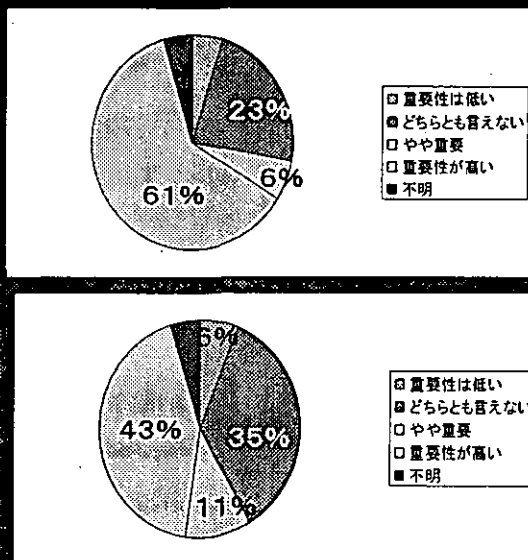
テレケアからの収入

保険点数請求

2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

# 今後の遠隔医療に重要なものは？



診療報酬化

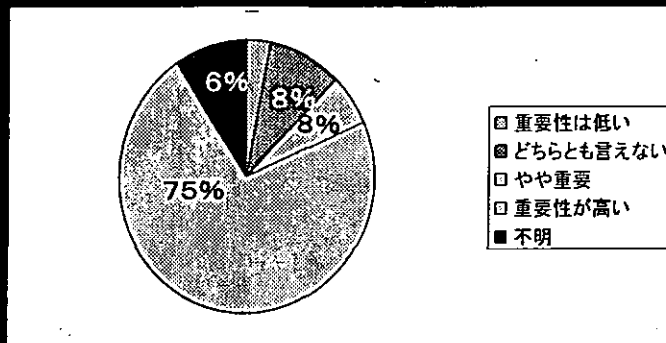
機器と回線使用料が高い

2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

# 今後の遠隔医療に重要なのは？

## 有効性の証明

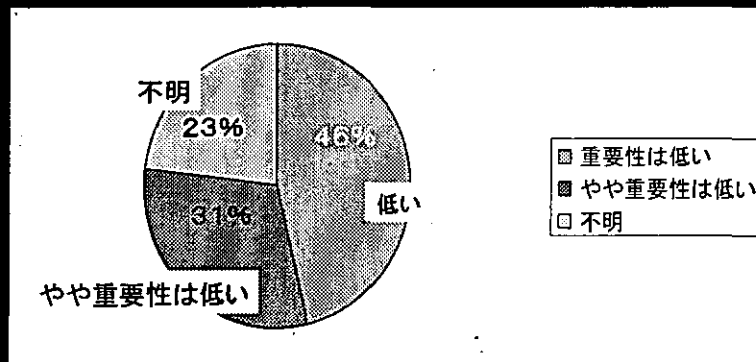


2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会

# 今後の遠隔医療に重要なのは？

## 利用者から料金の徴収



2004/3/5

厚生労働省 班研究  
発表会



## まとめ

- アンケート調査より
  - テレケアは全国的に地域ベースでひろがっている
  - 生体情報を中心に、保健と医療の連携ツールとして使われている
  - 費用を得ている例は少なく、利用者からの聴取は難しいと感じている
  - 有効性の証明によって、税負担で導入するのがよいと感じている

2004/3/5

厚生労働省 研究  
発表会

## テレパソロジーの実施状況 研究協力者 東福寺幾夫 オリンパス株式会社

**研究要旨** 現在稼働中のテレパソ利用状況等を調査し、今後の利用普及策等検討の資料とするため、テレパソ導入施設に調査票を郵送し、回答を返送して頂いた。141施設に発送し56.1%の80施設から回答があった。テレパソ実施件数は1993年以来連続増加しており、2002年の実施施設は延べ69、実施件数は3135、そのうち2349件、75%が術中迅速診断である。医療効果の評価、診断料の徴収支払いの実態が明らかになった。

### A. 研究目的

現在稼働中のテレパソ利用状況等を調査し、今後の利用普及策等検討の資料とすることを目的とした。

### B. 研究方法

テレパソロジーは、これまでMEDIS-DC、テレパソロジー研究会などで調査が行われており、2003年度の調査は、本研究班で実施した。

#### (1) 調査事項

対象：全テレパソロジー導入施設（147：IT医療白書03、月刊新医療増刊、2003他）

#### (2) 調査事項：運用状況、医療効果、経済効果

施設情報、システム情報（型式、通信回線、画像方式など）、運用状況（導入時期、通信先、利用実績、医療効果、保険請求状況、収支状況など）、課題、要望

### C. 研究結果

添付資料にグラフを示す。

### D. 考察

- ・ テレパソロジーは、順調に実施件数が増加している。
- ・ この調査に漏れた施設での実施件数を類推しても、年間の遠隔術中迅速病理検査は5000件程度である。経済的には採算性の成立が厳しいと考えられる。

### E. 結論

現在のテレパソロジーの概況を示した。

今後の発展のための検討課題も少なくない。この結果を以降の発展に役立てたい。

# テレパソロジーの実施状況 調査結果

オリンパス株式会社  
東福寺幾夫

2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

1

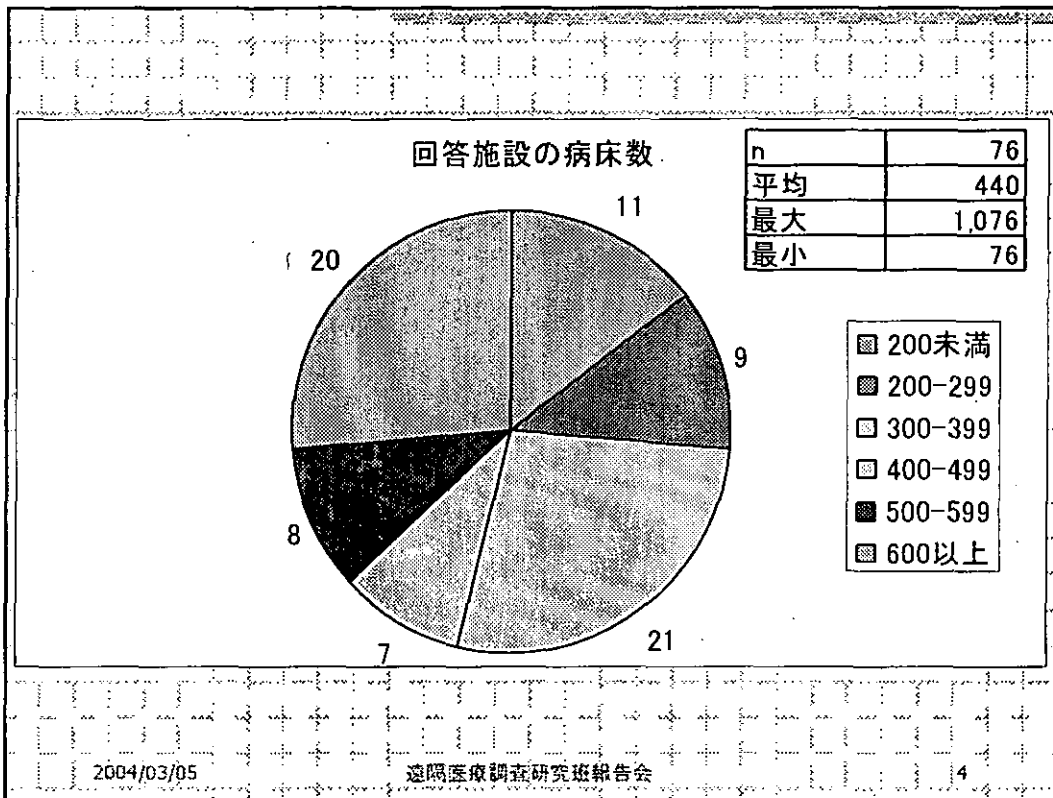
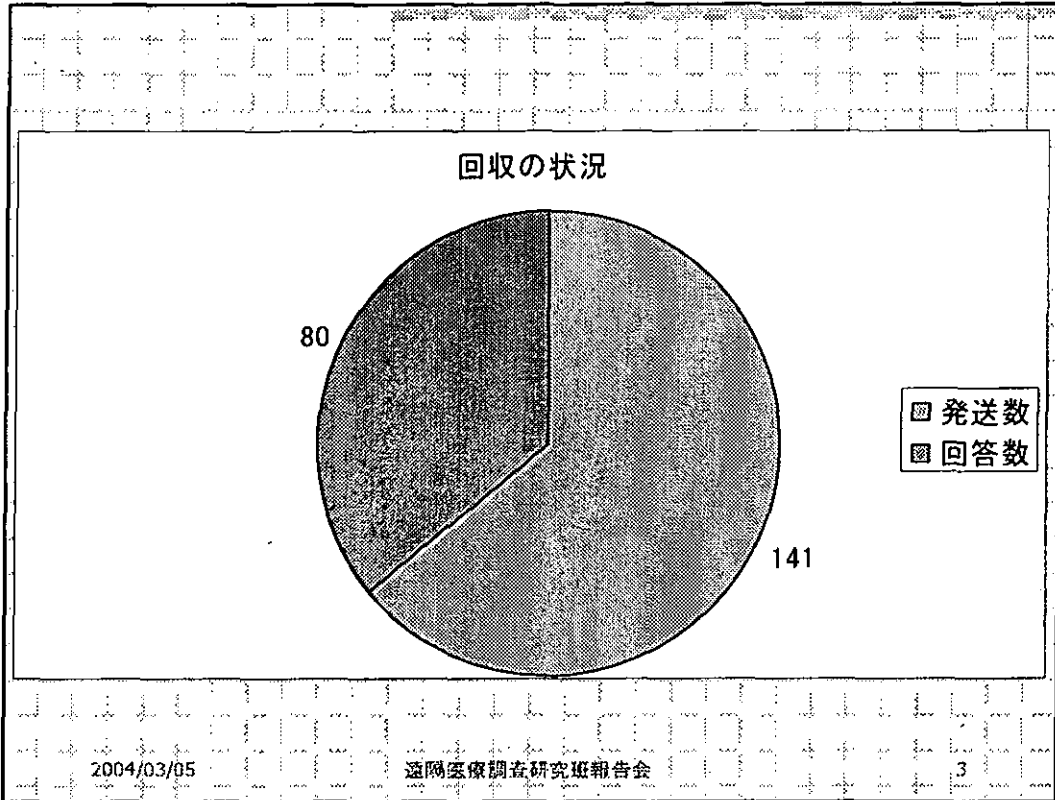
## 2003年度調査事項

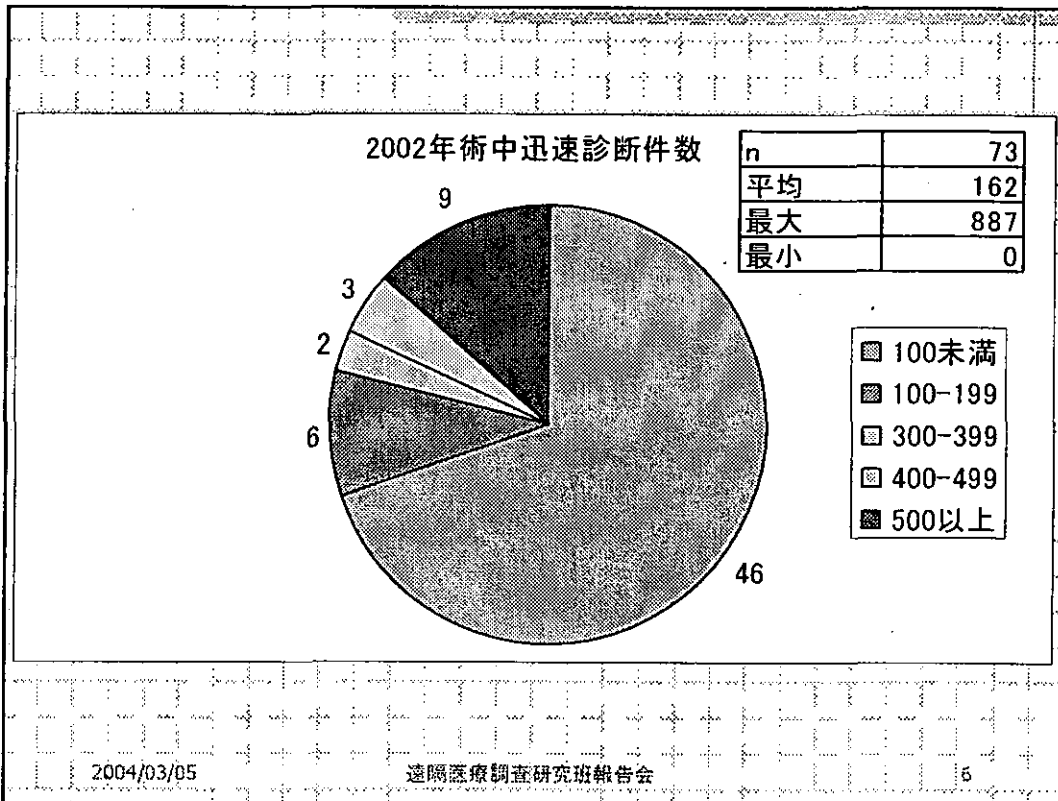
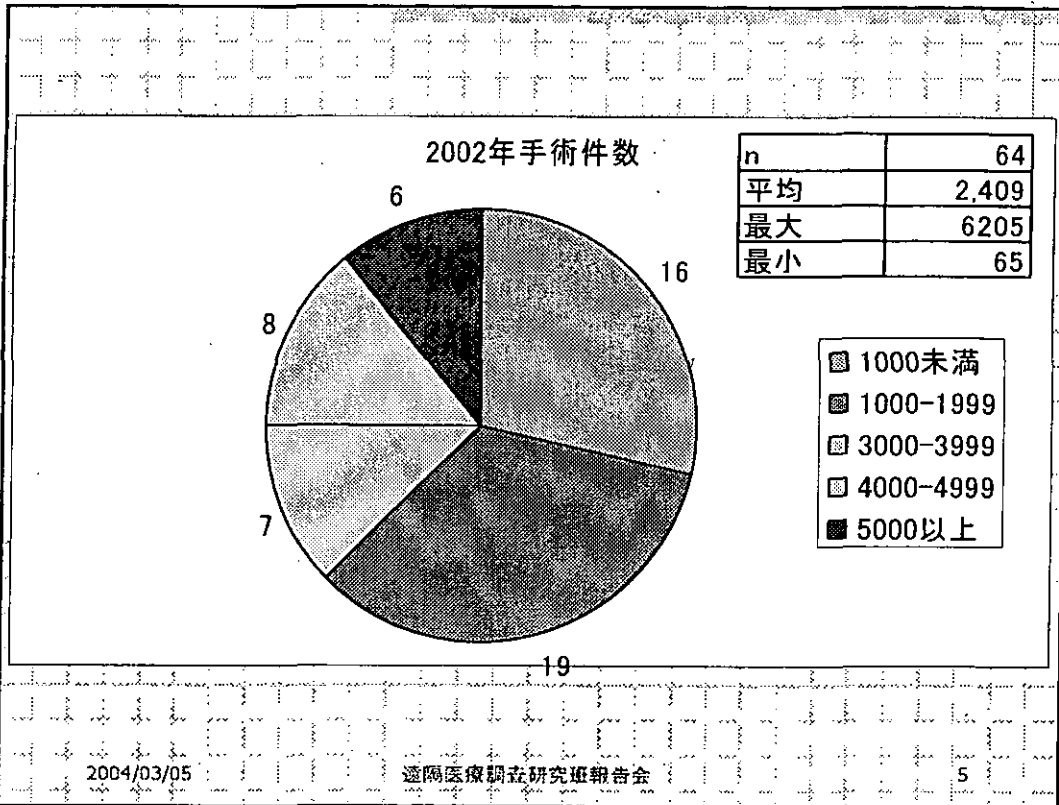
- ◆対象: 全テレパソロジー導入施設(147:IT  
医療白書03、月刊新医療増刊、2003)
- ◆調査事項: 運用状況、医療効果、経済効果
  - 施設情報、システム情報(型式、通信回線、画像方式など)
  - 運用状況(導入時期、通信先、利用実績、医療効果、保険請求状況、収支状況など)
  - 課題、要望

2004/03/05

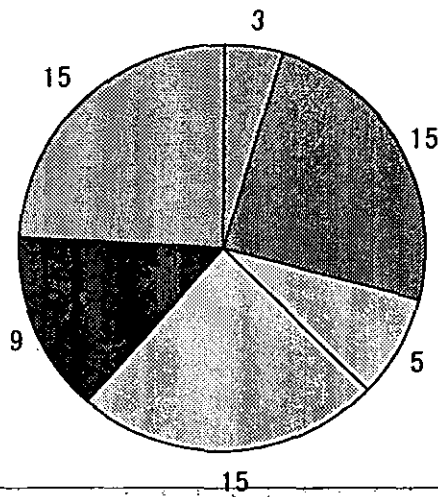
遠隔医療調査研究班報告会

2





術中迅速診断率の分布



n	0.0%
平均	7.7%
最大	40.0%
最小	0.0%

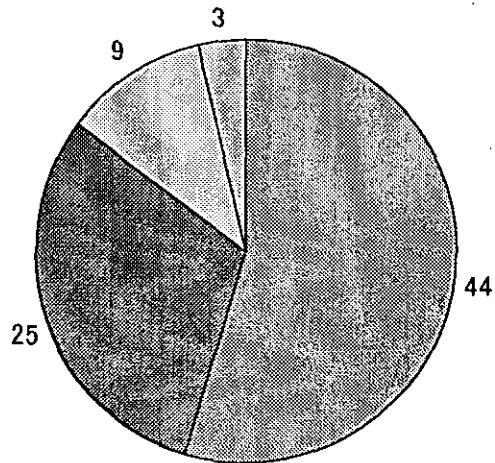
- 0%
- 1%未満
- 1-2%
- 2-5%
- 5-10%
- 10%以上

2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

7

テレパソロジー使用状況(重複回答あり)

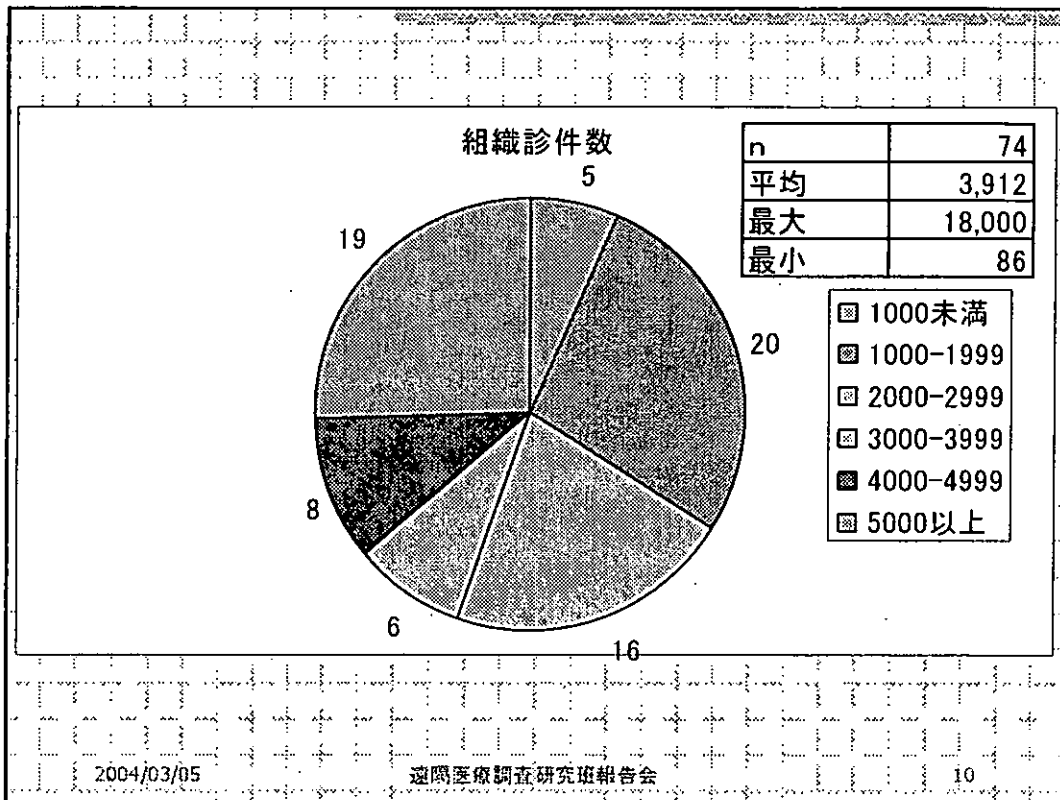
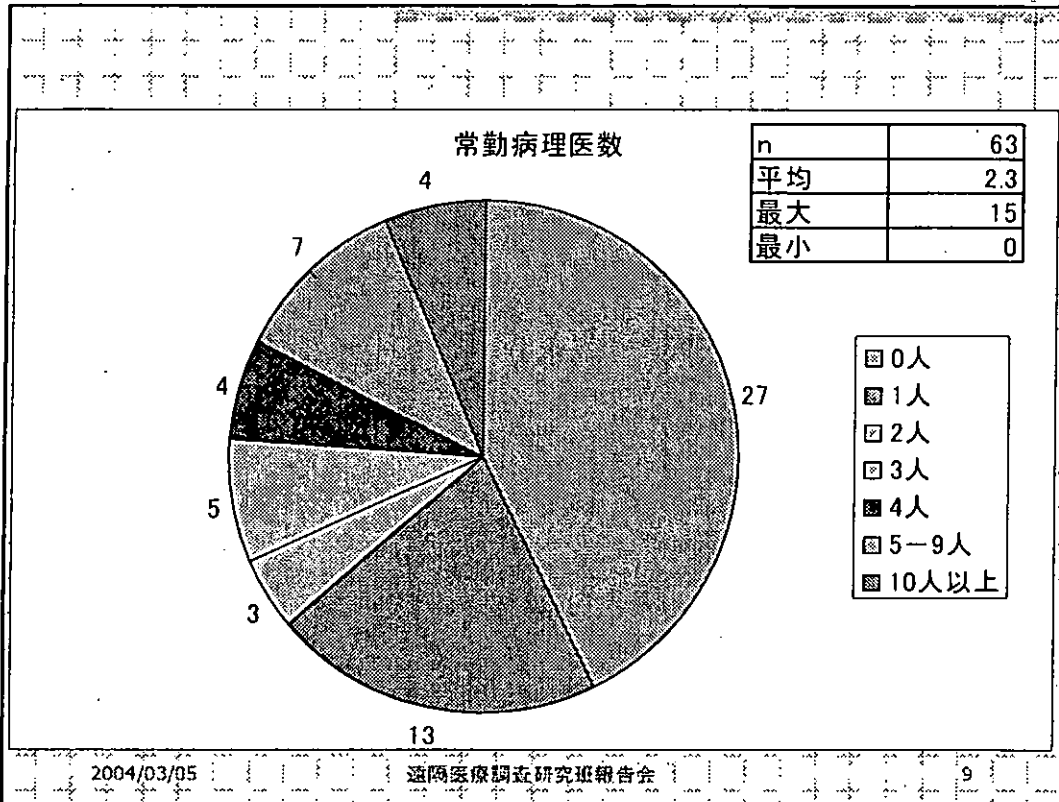


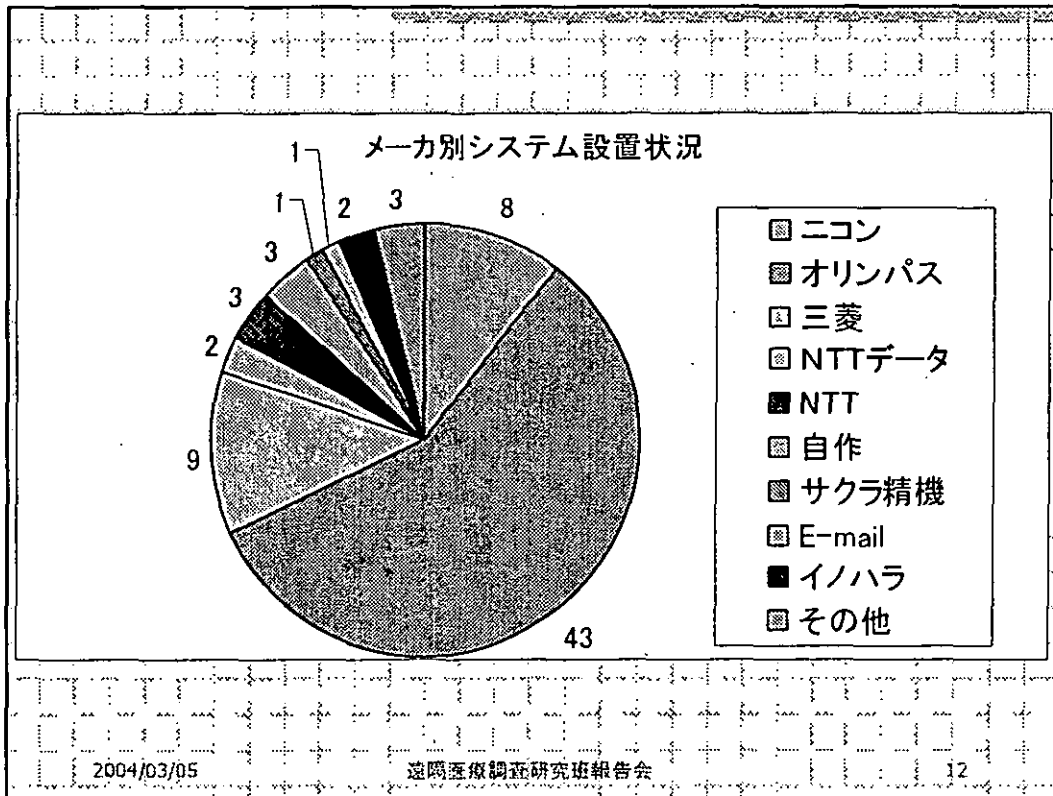
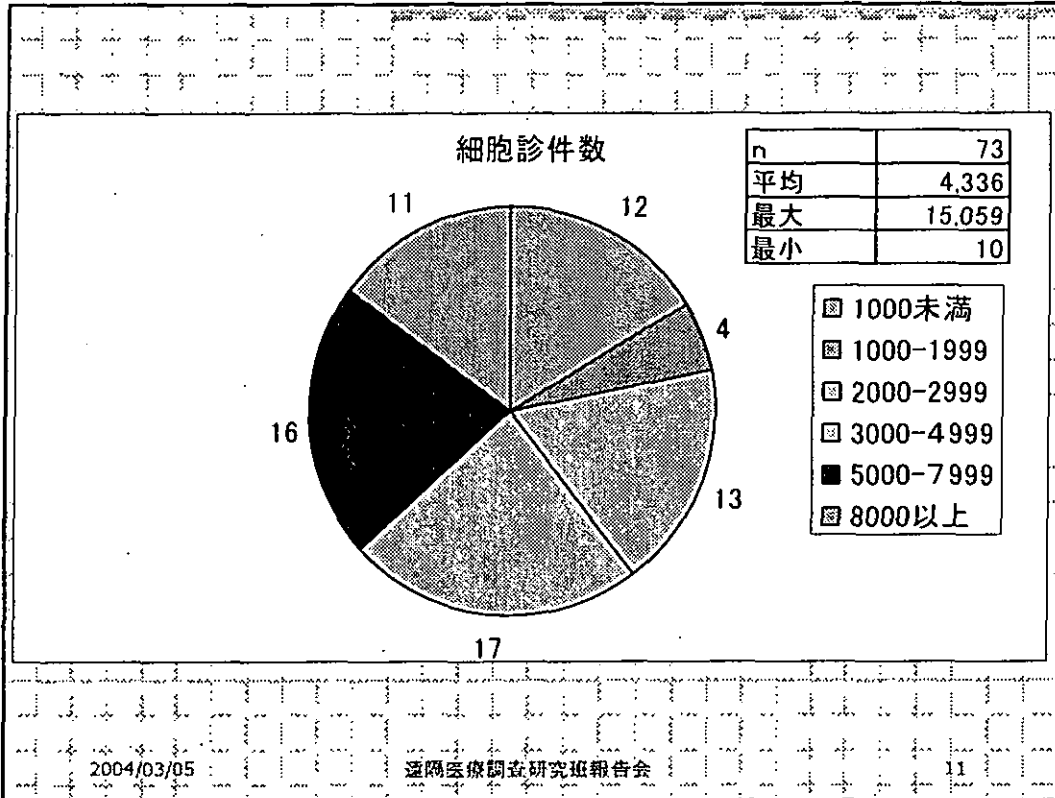
- 依頼側として使用中
- 観察側として使用中
- もう止めた
- 購入したが使っていない

2004/03/05

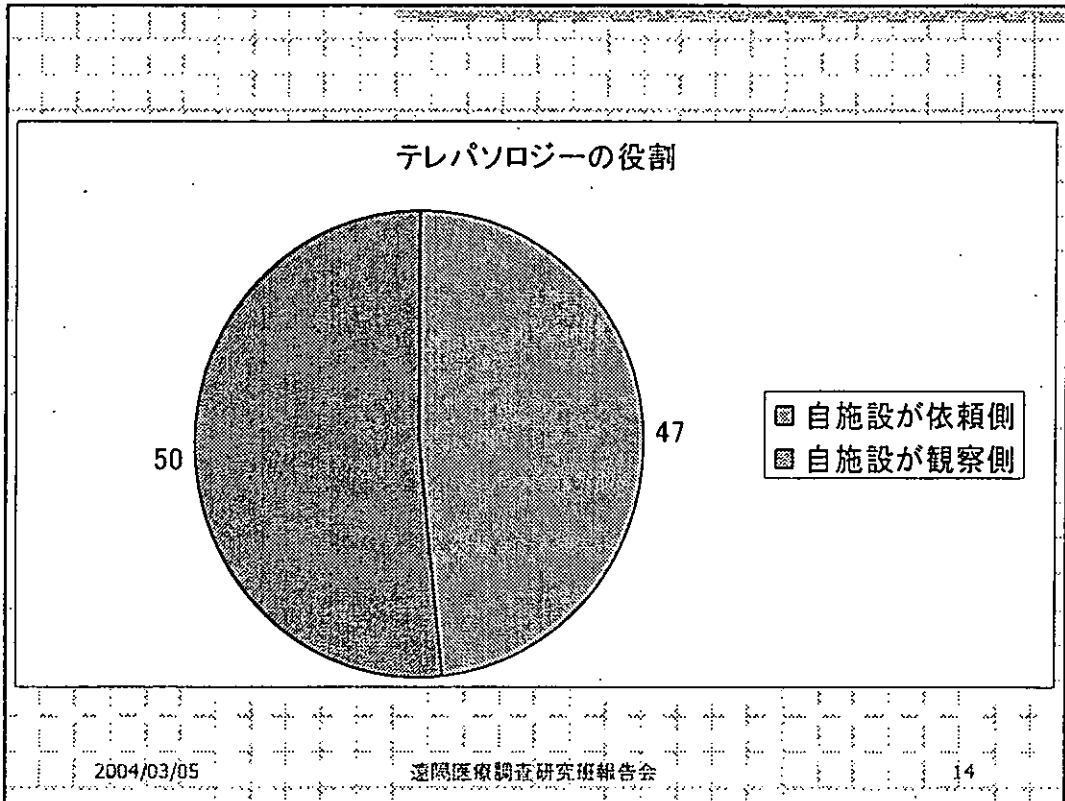
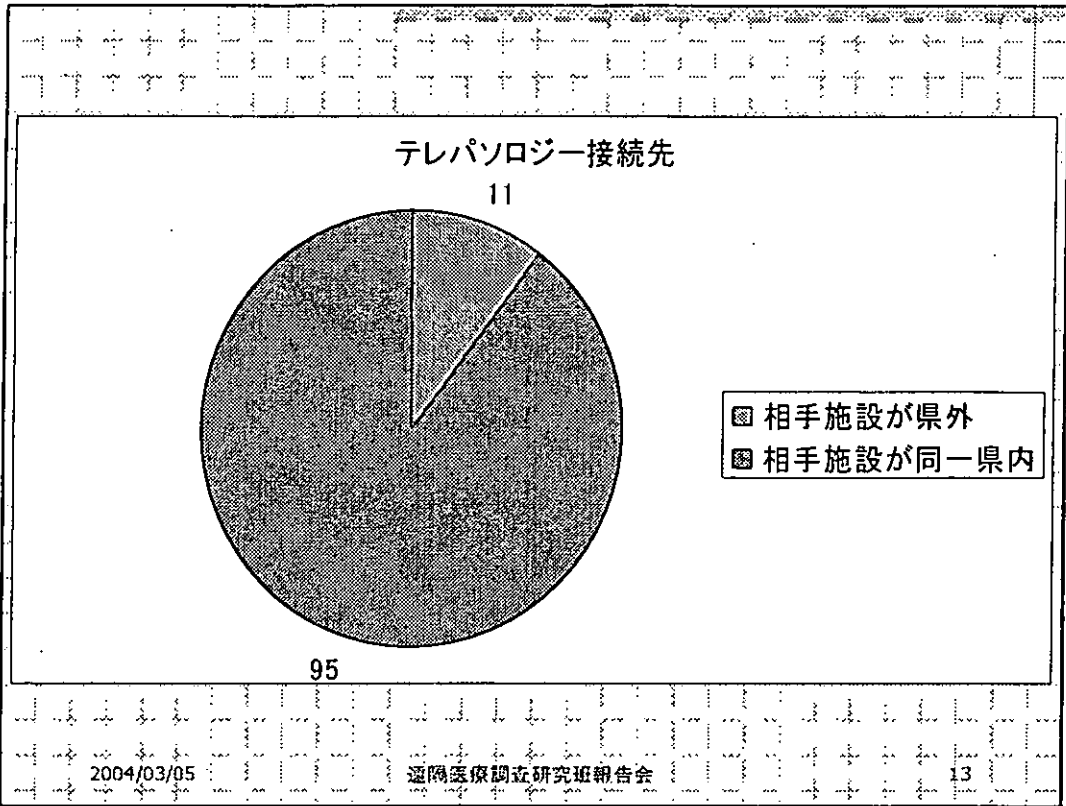
遠隔医療調査研究班報告会

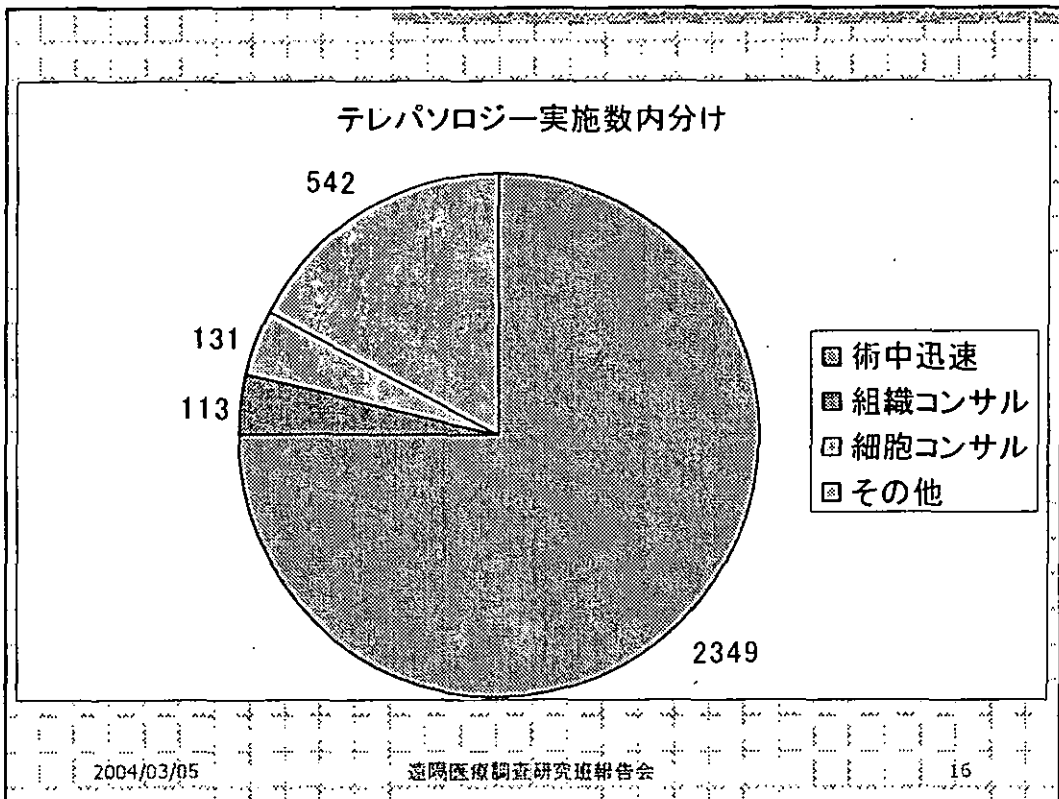
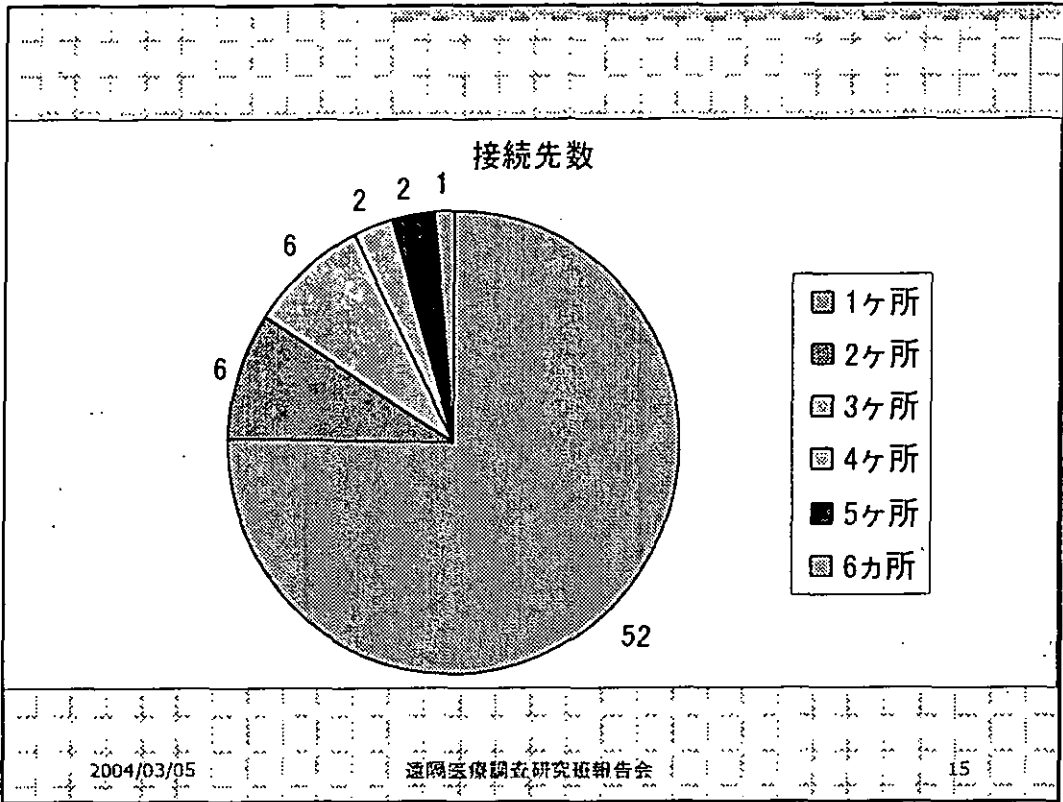
8



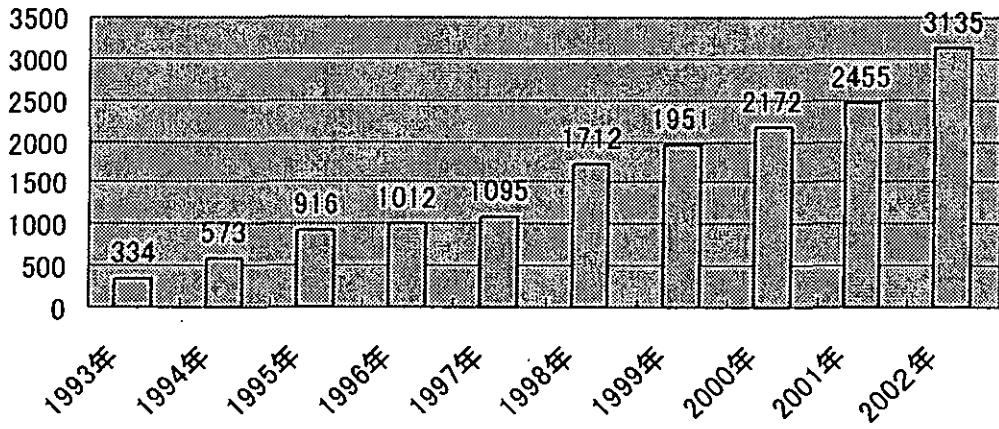








### テレパソロジー実施件数推移

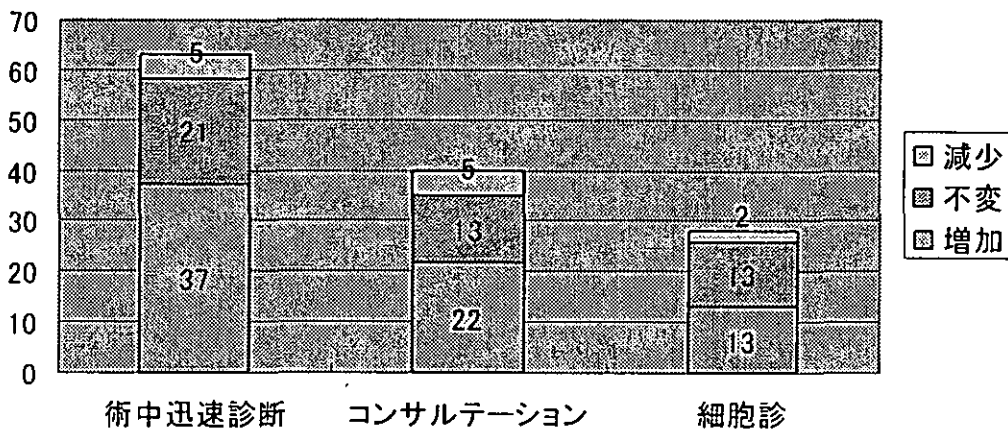


2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

17

### テレパソロジー増減の予測

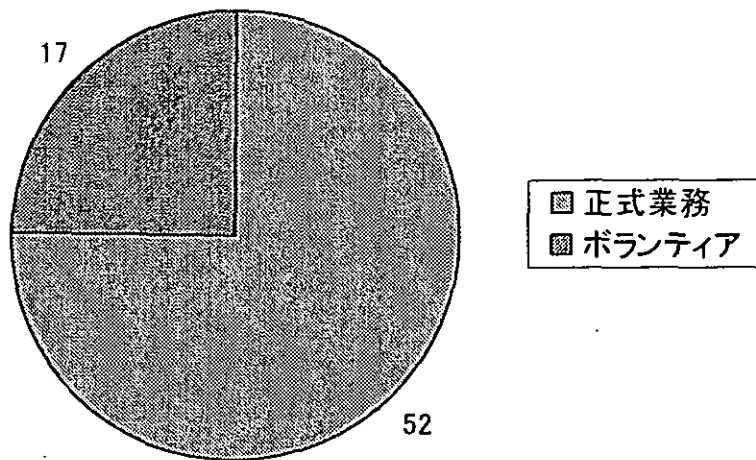


2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

18

### テレパソロジー業務の位置付け

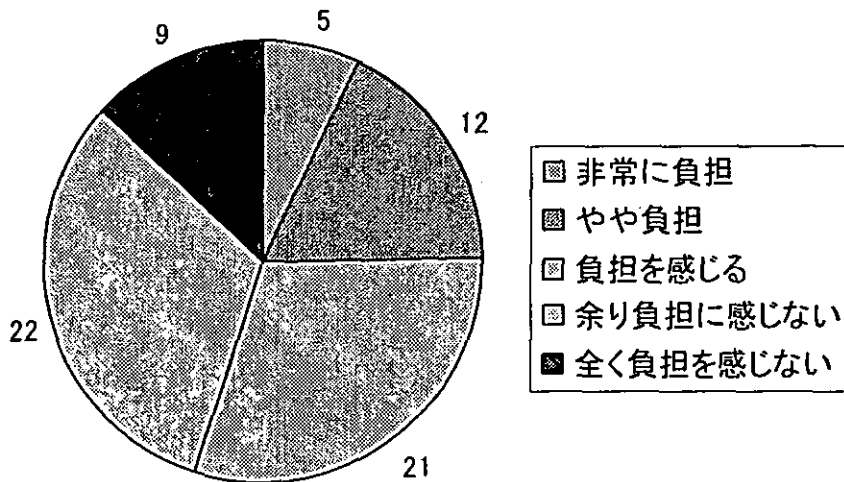


2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

19

### テレパソロジーの負担感



2004/03/05

遠隔医療調査研究班報告会

20